

ヘルン文庫の紹介

四 津 忠 一

1. ヘルン文庫が富山大学にある由来について

大正12年11月に、富山大学の前身校の一つである旧制富山高等学校の初代校長南日恒太郎先生が開校準備のため上京されたおり、南日先生の実弟の隆次氏から、小泉家ではこれらの蔵書を管理できる大学の図書館等へ譲渡してもよいとの意向をお持ちになっていることお聞きになった。南日先生は、翌年開校予定の富山高等学校に優秀な先生方を集め、当地の文化の中心になる機縁になることを願われるとともに、同校に招致するに相応しい蔵書であると判断され、早速に実弟の隆次氏を通じ譲渡の申し出をされました。

話は、1週間のうちにまとめ、その年の暮れには富山へ搬送されました。譲渡の資金については、旧制富山高等学校の創設に多大な私財を投じられた、東岩瀬の廻船問屋馬場家に寄付を仰がれ購入が実現しました。そして、当時、馬場家で経営に当たっておられた馬場はる氏が、翌大正13年6月10日の開校記念日にこの蔵書を記念として寄贈され、「ヘルン文庫」として所蔵するに至ったものです。

昭和24年5月、新制富山大学の発足に伴い、この「ヘルン文庫」は、富山大学附属図書館の蔵書として引き継がれ、今日に至っています。

また、ハーンを「ヘルン」と呼称することについては、八雲が最初に英語教師として赴任した島根県松江中学校の辞令に、片仮名で「ヘルン」と書かれていたことから周囲の人たちも「ヘルン先生」と呼ぶようになり、本人も親しんでいたことからこのように呼称されるようになったと言われています。

2. 八雲の日本での生活について

八雲は、明治23年4月4日に横浜に到着しました。アメリカの出版社ハーパーの依頼で、ウエルトンという挿し絵画家と一緒に日本の紀行文を書く目的で来日しました。ところが、挿し絵画家より自分の契約金が低い事を知り、ハーパー社との契約を破棄ししばらく日本で生活することに決めました。

日本での最初の赴任地が松江でした。松江では1年間、尋常中学校及び師範学校で英語教師として教鞭をとりました。

熊本の第5高等学校で3年間、同じく英語教師として教鞭をとり、次に、神戸クロニクル社の新聞記者として2年間神戸で暮らしました。

その後、東京文化大学（現在の東京大学）から招請を受け、最初の英文学の講師として7年間教鞭をとりました。晩年の54才の半年は、早稲田でも教鞭をとっています。

このように、八雲は日本で松江、熊本、神戸、東京と移り住むことになりました。

3. 八雲の著作活動について

八雲は、明治23年から明治37年まで14年間日本で生活しましたが、この間に日本に関する

図書を13冊、アメリカで刊行しています。また、神戸クロニクル社時代にも日本に関する小論、随筆を多数書いています。なお、日本に来る前の八雲の著作については、彼の友人が2編の小説を含め、紀行文、翻訳書（彼は、アメリカでフランス文学の紹介者としても活躍していた）、中国に関する著作ほか、新聞・雑誌等の記事を集め、彼の没後に著作全集として収め、大正11年(1922)に刊行しています。

「小泉八雲」は、日本での著作及びそれ以前の彼の文学的作品を通して、現在日本では、明治の文豪としての評価を受けています。八雲が著した日本に関する図書13冊のうち、最初に出版された図書「知られぬ日本の面影」（ニューヨーク、ハウトン・ミフリン書店刊）は、別名「日本瞥見記」とも言われており、日本に上陸してから松江を去るときまでを、上下2巻に著しています。特に、下巻の「日本人の微笑」という日本人独特の感情表現をとらえた一文は高く評価されており、当時、海外でこの一文を目にした民俗学者の柳田国男は、大変に感動したと述懐しています。

以後、「東のくから」や、著名な「耳なし芳一」を収めた「怪談」、彼の没後に刊行された「天の川奇譚」等、合計14冊が出版されましたが、分けても彼が晩年辛苦を傾けた労作、通称「神国日本」といわれる「日本一つの試論」は、彼の日本関係の学究を集大成した大作であり、海外において日本を理解するうえで欠くことのできない作品として、ベネティクトの「菊と刀」に並ぶ高い評価を受けています。本学図書館で保管しているものは、この無校正の手書き原稿1,200枚です。

ヘルン文庫には、2,435冊からなる旧蔵書が保管されており、旧制富山高等学校時代に分類された図書内容に従い配列されています。大半は、八雲が生前に収集した図書で、英語図書、仏語図書、日本で主に妻のセツが買い求めた和漢書から構成されており、学問大系に沿ったコレクションとして高い評価を受けています。

4．ヘルン文庫の蔵書内容

ヘルン文庫には全部で2,435冊の図書があります。八雲がアメリカのニューオリンズ時代に寸暇を惜しみ、収入の大半を費やして購入した図書と、日本に来て購入した図書です。前者には「*Lafcadio Hearn*」のゴム印が押してあり、後者には「へるん」の印が押してあります。洋書のうち英語の図書が1,352冊、フランス語の図書が719冊、和漢書が364冊のほかに、「神国日本」の手書き原稿1,200枚（秩入り2冊）があります。

次に内容について概要を紹介します。英文学では、ベーオウルフからイエイツまでの詩やアーバーの英国詩選集10冊、チャイルド教授の英国民謡集4巻、ゴールドン・トリジャリー叢書34冊などがあります。

アメリカ文学では、哲人エマーソンの全集、詩人ブレット、ハート、ロングフェロー、ホイッティヤ、ホイットマン、ポーらの詩集、さらに「リバーサイド文学シリーズ」の小冊子98冊などがあります。

フランス文学では、バルザック全集50冊、ユーゴー33冊、フローベル、ドーデー11冊、モーパッサン18冊、メリメ6冊、フランス22冊、ロチ28冊、ゴーシェ、ボードレール、ミュッセ、ヴォルテール、ルメール、ゾラの作品などがあります。

ギリシャ・ラテン文学では、「ボーンズ古典叢書」やマクミラン版散文訳でホーマをはじめエウピリデスの戯曲、ホラチウス、ルクレチウス、オウィド、ヴェルギリウスなどの作品

があります。

ドイツ・北欧文学では、ゲーテ15冊、ハイネ、レッシング、リヒター、イプセン、メーテルリンクなどの英語版のほかに、仏語訳ハイネ14冊があります。

ロシア文学では、ドストエフスキー、トルストイ、ツールゲネフの仏語訳が各4冊ずつあります。

神話・民間伝承に関するものでは、フレイザーの「金枝篇」や中世の神話・寓話類があります。

歴史関係では、バックルの「英国文明史」、史家ミュシュレーの全集50冊、ティヌ8冊、ギボンの「ローマ帝国衰亡史」、グロートの「ギリシャ史」、フィクスの「北米史」、アッシリア、エジプトの古代資料「Records of the Past」、ウィンケルマンの「古代芸術史」などがあります。

哲学・心理学・倫理学関係では、スペンサーの著作40冊、グラント・アレン、W. ジェイムズ、レッキー、ショーペンハウアー、ニーチェ、心理学のリボー、モーズリなどの著作があります。

宗教関係では、マクス・ミュラー篇「東洋の聖書」24冊や、エルセヴィール版「ビブリオテーク・オリエンタル」42冊、シュワブの「タルムード」など東方の宗教に関するものが多く、イギリスの仏教学者T. W. R. ディヴィスの「仏教、歴史と文献」ほかインド思想と仏教関係の蔵書は約70冊を数えます。

東洋関係では、ウィリアム・アダムズ（三浦按針）が日本から本国に送った手紙を集めた「Original Letters」のほか、中国、インド、ペルシャ、アジアに関する古版の希覯書があり、これら多くはアメリカ時代に蒐集したものです。

日本関係では、アストンの英訳による「日本紀」、「日本文学史」、「日本文語文法」、「日本口語文法」、チェンバレンの英訳による「古事記」、「日本口語便覧」、「日本語小文法」、「日本事物誌」ディキンズ英訳による「忠臣蔵」、グリフィスの「ミカドの帝国」、「日本の妖精界」、バチエラーの「アイヌ研究」、ラインの英訳「日本調査旅行記」、能登半島を紀行したパーシバル・ローエルの「極東の魂」、フランス語の著作では、L. ロニーのもの、日本人の作品では、末弘謙澄の英訳「源氏物語」、岡倉天心の「東洋の理想」、穂積陳重の「祖先崇拜と日本の法律」などがあり、それらの中には、著者新渡戸稲造がハーンへの献辞を付して贈った「武士道」など68冊を数えます。

文法書は、英語、フランス語、スペイン語、ラテン語のものがあります。辞典には1896年版ウェブスター、ウィリアム・スミスのギリシャ・ラテンの古典辞典などがあります。

自然科学関係では、「国際科学シリーズ」18冊、「ケンブリッジナチュラリヒストリー」全8冊などの叢書のほか、ダーウイン、フンボルト、A. R. ウォーレス、T. ハックスリー、ファブルの著作があります。

定期刊行物では、「日本アジア協会報告」「ロンドン日本協会雑誌」が揃っています。また、ハーンの寄稿の載った「アトランティック・マンスリー」もあります。

和漢書の364冊は、106種ですべて日本のものです。大別すれば、「帝国文庫」のような明治期の活字本と江戸期の版本です。中には例外として手写本や明治期の版本もあります。手写本や江戸時代の版本では、伝説、説話、随筆、浮世草子、怪談の類が多い。ハーン作品の原話を収めた数冊をあげれば、茶碗の中、生霊、甥の話の「新著聞集」、耳なし芳一の「臥

遊奇談」、おしどりの「古今著聞集」、ろくろ首の「怪物与論」、青柳のはなしの「玉すだれ」、鏡の少女、伊東則資の話の「当日奇観」などがあり、仏教関係は、11点あります。

その他特記すべき蔵書として、1922年(大正11)に刊行されたホートン・ミフリン社の「小泉八雲全集」(英文、全16巻)のAuthor's Copy 版が収められており、これには、夫人「小泉節」さんの署名と押印があります。

以下に、文庫所蔵の洋書を英語本とフランス語本に分け、かつニューオリンズ時代と日本時代とに分けた分野別の数字(平田 純「ヘルン文庫」下、昭和60年より)を紹介します。

*洋書分野別冊数

事項 種類	英 語 本		フ ラ ン ス 語 本	
	ニューオリンズ時代	日 本 時 代	ニューオリンズ時代	日 本 時 代
イギリス文学	25	235		
アメリカ文学	4	34		
フランス文学	3	1	76	206
ヨーロッパ文学	14	47	29	49
選集・批評・文学	13	288	7	13
神話・民間伝承	6	18	46	28
歴史	24	52	51	68
哲学・宗教	31	125	39	6
東洋関係	28	73	54	13
言語・辞典	9	73	7	
自然科学	37	72	14	2
雑	3	14	6	1
定期刊行物		100		4
ハーン著作		24		
小 計	197	1,155	329	390
合 計		1,352 (冊)		719 (冊)

ヘルン文庫の蔵書は、八雲の知識そのものであり、彼の評論・随筆、文学的創作活動の糧となった原拠の資料群と言えます。また、19才でアメリカでの窮乏の生活を余儀なくされた彼が、図書館へ通い独学で知識を広め、所蔵資料の収集を成して多くの文筆活動を展開した足跡とも言えるものです。

富山大学附属図書館では、今後とも多くの方がヘルン文庫を利用し、八雲の著作活動について広く研究・学習が展開されることを期待しています。

参考資料

平田 純「ヘルン文庫」上、下(「同朋」 86,87 昭和60年)

布村 弘「ヘルン文庫」(「小泉八雲事典」 恒文社 平成12年)